

テンドーフト体験集会 一集会例一 (案)

1回の集会の中でいろいろなものを組みあわせたり、シリーズ化してもよいでしょう。

集会例①春のデイキャンプ

内容： ジュニア・シニア・レンジャースカウトが一泊で行っている春キャンプに参加し、楽しくキャンプ体験する

- ① 簡単に自己紹介したのち、お姉さんたちがたてたテントに入ってあそぶ。
- ② キャンプ場に隣接している公園の遊具で遊んだり、鬼ごっこを楽しむ。
- ③ 夕食作りに必要な、まき（小枝）をひろいながらテントサイトに戻る。その時、パキッという音の出る小枝がよく燃えることを伝え、いい音のする枝を探しながら楽しくキャンプ場に戻る。
- ④ 夕食づくりは、お母さんと一緒に材料を切ったり、お姉さんにかまどの火を見せてもらったりする。
- ⑤ 陽が落ちたら、キャンプファイアーを始め、たくさんの歌を歌ったりする。
- ⑥ 楽しい雰囲気でお別れをする。

持ち物

スプーン、皿、はし、レジャーシート、雨具、軍手
※キャンプ用品は団で全て用意。

上述のものだけを持参して参加してもらった。



【おすすめコメント！】

体験集会に、シニアやレンジャーと一緒にいて、その姿を見せることで、「あ～、中高生になると、こんなお姉さんになるのね」という話をする保護者が多いそうです。また「体験集会」の際には、シニア・レンジャーのベテランお母さんたちに対応してもらおうと、子どもはスカウトと一緒に集会に参加、保護者は保護者同士でガールスカウトや団の話をしてもらえるので、集会をしながら、リーダーが説明するより、ずっと効率がよいです。

集会例②よくみて よくきいて みんなとなかよく

内容：五感をはたらかせよう

- ① はじまりの会・アイスブレイキング
- ② こどもたちがわくわくするように、「こびと」のお話をする。
- ③ 一緒に簡単スイートポテトづくりをする。
- ④ おやつができたグループから、おやつを持って、「こびと」探しをする。「こびと」を探しながら、工作の材料も集めていく。
- ⑤ 途中、おやつを食べる。
- ⑥ 集めた工作の材料を使って、工作を作成する。
- ⑦ 作品の発表をする。
- ⑧ おわりの会

持ち物

水筒（お茶）、ハンカチ、ティッシュ、雨具（カッパ）
※リュックサックに入れてくること



【おすすめコメント！】

保護者は、子どもと分かれて同じプログラムを体験してもらうようにしました。そのことによって、体験を通じた親子のコミュニケーションの機会を作りました。また、子どもが活動している間、保護者に対してはトレーナーからガールスカウトについての説明をしてもらいました。

2013年度の実施報告書から見えてきた入会につながった例は以下のとおりです。

会員獲得のポイント（参考）

・チラシ作成にあたって

市町村および教育委員会から後援をもらう

・広報活動について

チラシは、少女会員の保護者から、ママ友に配ってもらう

地域の広報誌（子どもセンターの情報誌など含む）に掲載してもらう

体験集会のポスターやチラシをスーパーに掲示してもらう

・プログラム内容について

- ・ シリーズ化し、スタンプラリーの台紙を渡して、複数回（3回程度）体験してもらえるようにする
- ・ 保護者も一緒に体験してもらいながら、きちんと説明できる時間を設け、ガールスカウトについて知ってもらう
- ・ 年長スカウトと交流したり、活動の様子に触れてもらうと、団での活動イメージがつきやすいよう
- ・ スイーツやおにぎりづくりなど、簡単で楽しいものを作って食べるというプログラムは参加率は高いが、入会にはつながらないケースになりがち。ただ、保護者だけテーブルを分けて食事をしながら説明をしたり質問を受けるなど丁寧な対応が入会者が複数という結果をだしている。
- ・ 材料費などが発生する場合は、きちんと参加費をとる（100円～200円程度）

集会の計画をたてる際、以下の点も参考にしてください。

体験集会を企画する際のヒント

・特別なことをしようとせず、普段の活動の様子が伝わるものにする。

難しく考えすぎない。リーダーも楽しもう！

・ガールスカウトの特徴を体験してもらいやすいものを選ぶ。

幼稚園や保育園でもよくやっている歌や手遊び、絵をかくということは避け、野外料理・自然物を使ったクラフト・テントや寝袋の体験など、保護者にとって新鮮でガールスカウト活動への関心と期待をもってもらえるものがよい。

しかし、集会の導入や気分転換に歌や手遊び、ゲームをしたりすることを否定するものではなく、むしろ幼稚園や保育園でなじみのあるものを取り入れるとよい。

・リーダーは、「今はこれをする」という目的意識をもつことが大切。

幼児は、生活そのものが遊びの中にあるようなもの。特に野外にでるときは、何も意識していなくても楽しそうに遊ぶので、ただ遊ぶだけにならないように注意が必要。たとえば、「小枝を探そう」という目的をもって野外にできれば、遊びながらも小枝さがしをする。そうすれば、子ども達が、「楽しかった」という外遊びに対する感想だけでなく、「小枝を見つけた」という「達成感」を持つことが期待できる。

・ブラウニーやジュニアなど他部門の集会と日時を合わせる。

ブラウニーやジュニアなど年の近いスカウトの姿は、保護者が活動を理解するのに役立つ。ブラウニーと一緒に活動するのもよい。手をつなぐ、さりげなく声掛けや手助けするなどのお姉さんたちの手助けは、本人にとっても、保護者にとっても嬉しいもの。なるべく触れ合う機会をつくるとよい。一緒に活動しない場合でも、アイスブレイキング・開会式・閉会式などは、ぜひ一緒に。

・団行事に参加する体験。

団全体でプログラムを行う集会を体験集会としてもよい。シニアやレンジャーが司会進行したり、プログラムを進めたりする姿、年少者に対して手助けする姿は、保護者が我が子もこんなふう to 育ててほしいと将来の姿をイメージしやすい。長く続けることでこそ身につく活動であることを伝えることは重要。

様々な年代のスカウト、リーダー、運営委員で団が構成されていて、それぞれに影響しあっていることが感じられるようにする。部門ごとに異なった活動をしていても、年少スカウトのロールモデルとしての年長スカウトの存在の大きさも伝えたい。

・他部門の協力も得て、団全体でテンドーフトを受け入れ、支え育てるという姿勢が大切。

団全体で歓迎する姿勢を見せよう！

・体験者の保護者にも楽しんでもらう。

集会の間に保護者も一緒に体験できるような時間をつくるとよい。保護者自身が楽しかったと思えることも大切。また、この時は一緒に、この時は見守ってもらうなどあらかじめ保護者にどうかかわってもらうかを考えておくとよい。

準備は入念に

・幼児は、なんでも自分でやってみたいもの。

準備を入念にしていれば、大人が手をかけすぎず、子ども達は「自分でできた！」「はじめてこんなことに挑戦した！」などといった達成感や満足感を得ることができる。準備をしっかりと、当日は見守る姿勢で。なんでもやってみようという気持ちをくみとってあげられる準備が必要。

・ちらしを作成して、幼稚園や保育園でくばってもらうなどの工夫をする。

たくさんの人に参加してもらえるように、事前の周知を工夫する。保護者の手をかりて、出身の幼稚園や保育園などにかけあってもらうのがよい。

・子ども達の疑問に答えられるように。

わからないことは、何でも質問するのでなるべく答えられるように事前に資料を見たり、必要なことを覚えておいたりするとよい。視線を低くして、子ども達の世界を想像してみると言葉がけのアイデアが生まれてくることもある。準備は、ものの準備だけではなく心や知識も必要。

アイスブレイキング・開会式・閉会式

・歌をうたったりしながら楽しい雰囲気です。

人見知りをする子どもなど最初から打ち解けるのが難しい子どもも多いので、保護者に一緒にはいってもらったり、ブラウニーやリーダーがそばにいて声掛けをしたりする。じゃんけん列車など簡単に楽しいものがよい。無理に参加しなくても離れたところで見ているだけでもよい。時間も短く。

閉会式も楽しい雰囲気です。次につなげる工夫をする。さよならブラウニーは、テンダーフットも歌詞に加えて可能であればブラウニーと一緒にすると楽しい。他部門と一緒に活動する日であれば、開会式・閉会式は一緒に。

保護者へのことばがけ

・子ども達の様子や言葉を保護者につたえよう。

子ども達がどんな様子だったかは、保護者にとって最も気になること。子どもは「楽しかった」などの感想しかうまく伝えることができないので同じように「楽しそうにしていました。」と伝えるのではなく、具体的な行動や言葉を覚えておいて、保護者に伝えることを心がける。保護者は、丁寧な対応をされることで、親近感を持つもの。たとえば、「木の芽がふくらんでいるのを見つけて、春をみつけたといっていましたよ。」や「自分で火をつけてみたいと言って、マッチで火をつけてみたんですよ。最初は怖がっていましたが、思い切ってやったらうまくできました。」「自分でのこぎりをつかってみたいと言って、ここを自分で切ったんですよ。苦労していましたが、最後までがんばりました。」など言葉は多いほうがよいでしょう。

時に子どもは、大人が想像できない素敵なことばを言ったりするもの。それを聞いたときは、忘れずにメモをするなどして伝えるとよい。また、子どもも一緒にいる前ががんばったことをほめ、お母さんに伝えると本人も認められたと自覚できる。

・ブラウニーやジュニアの活動へ期待をもってもらえるように。

ブラウニーやジュニアの活動をさりげなく紹介する。

例えば、カートンドッグを作った時には、「キャンプの朝食でよく作るんですよ。こんな料理でもちょっとしたコツがあって最初は焦げたりうまく焼けなかったりしますが、だんだんうまくなってきますよ。」サモアなら「おき火でつくるみんなが大好きなキャンプのごちそうなんですよ。」クラフトなら「ブラウニーやジュニアになればいろいろなロープ結びをつかって〇〇をつくったりするんですよ。」など、会話の中で自然に普段の活動の様子などを紹介してみると、保護者が関心を持ちやすく具体的な活動イメージができるとともに、説明会ではでないような質問が聞かれることもある。

作成：公益社団法人ガールスカウト日本連盟
 協力：松村 祥
 (プログラムトレーナー／大阪府第25団リーダー)
 集会例：東京都第76団および愛知県連盟
 (2013年度ともだち増やそう作戦報告書より)

